

相應なるは、名句にても、感慨なきものに候、今年天下第一の歳旦なるべしと、京大津の作者も致稱美候、不備、

正月廿四日

北枝様

芭蕉

服装

〔後水尾院當時年中行事^{上見}〕七日^{○中略}諸禮の日は、御引なほしに御下がさね、御前張^{或はすかし}の御はかまをめす、

〔宗建卿記〕享保十九年正月十三日、諸禮也、今日著御^{○中略}御門、御單御打衣等、是後水尾院年中行事被注之故云々、

〔御湯殿の上の日記〕天正十九年正月一日^{○中略}御ふく、御所に一かさね、御はかま御はいの御ふく、

御ゆかたまゐる、ゐんの御所へも一かさね、わかみやのかたへ一かさね、ひめみやのかたへ一かさね、玄ゆごうへ一かさね、女御へ一かさね、御おびそへ候てまゐる、めでたし、

〔内院年中行事〕正月朔日、二日、三日、七日、十五日、從禁中獻をまゐらせらる、御陪膳上臈、中臈女藏人、

皆はつき、袴、ビンフクテイ也、^{○中略}又院中御幸、宮々御參、御盃の時ハ、ハツキ、袴、ビンフク、スベラカ

シノテイ也、^{○中略}二日、入夜御取初ノ御盃事アリ、此時皆ハツキ袴、古老ノ者ハ、オホクハ紅梅下

ガサ子、白キ子リ、若衆ハ色々ノ段筋アリ、襲ハアルヒハ白キ子リ、又ハハクノモノナド也、^{○中略}

禁中様女中方い玄やうの事

一 正月朔日、朝の御やきかちんの御いはひ、いたの物にても、から物にても、夕かたの御さかづき下シ、ねもじかう、ばいの二ツゑり、うへにはりうらのあはせ、あさがれひにもかうばいの二ツゑり、

一二日、あさの御いはひ右と同じ、夕かた御さかづきに、何にてもいたの物、たんにもかうばい